

# ささえる力 Power

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。



# つなぐ力

～未来の自分と仲間のために～

本社 経営企画部 予算課

**中田 貴志**  
Nakata Takashi

平成10年水資源開発公団（現 水資源機構）入社。人事、経理、契約、用地など多岐にわたる業務に従事。中でも、給与業務6年、経理業務9年とお金に関わる仕事を多く経験してきた。平成29年4月より現職。

## 直感を頼りな

宮城県仙台市出身の中田。高校卒業を控え、家を出て県外で働きたいと思いつつも、将来何がしたいのか分からなかったと言う。「漠然と求人票を見ているとき、ふと目に留まったのが水資源開発公団（現 水資源機構）でした。」と当時を振り返る。「聞いたこともない会社名でしたが、ダムや水路の建設や管理といった他の求人にはない仕事内容に直感的に「面白そう」と思いましたね。」水資源機構の施設は関東より北には無い。仙台市出身で、施設を見たことも無いかつての中田青年の目に魅力的な何かがあったのだろうか。

入社を考える上で、転勤があることに對して、家族が転勤族ということもあつて抵抗は無かった。「父から、転勤はいろんな経験が出来るからいいぞ」と昔から薦められていたんです。実際、いろんな経験や、いろんな人に出会えて充実しています。入社当初の自分に、「選んで良かったな」と言いたいですね。」と照れくさそうに語ってくれた。

## 未来への足跡

現在予算課で手がけている予算作成に関する業務も、お金に関わる仕事ではあるが、これまで現場事務所を経験してきた経理業務と全く異なると話す。「現場事務所の経理業務は、事務所が所管する事業の実施のために措置された当年度の予算の中で、収入や支出を適正に管理する仕事です。一方、現在の予算課での業務は、機構の各事務所が所管する全ての建設事業や管理業務を進めるために必要な翌年度の予算を、関係省庁と連携・調整しながら作成していく仕事です。この予算が無ければ、各事業所が建設事業や管理業務を進めることができません。」



し、作業データを残しています。自分の作業効率はもちろん、後任の仕事も楽になると思うんですよ。」後任に対する細やかな気配りを忘れないところから、中田の仕事に對



う。「とにかく一通りやってみるようになっています。その上で大切なことは、その業務が、どのようなルールに基づいてやるべきものなのかを理解することだと思っています。」以前も同じやり方だった

のでやっていますという説明では説得力に欠けますよね。理解するのは大変かもしれませんが、必ず後から生きてきます！」と、力強く語ってくれた。初めての仕事に對しても真摯に向き合い、一步一步確実に理想へ近づく中田の姿があつた。



## 踏みおろ

入社から二十年を振り返ると、給与、経理、予算とお金に関わる仕事が多かつた中田。お金に関することは俺に聞け！といったスペシャリストを目指すのだろうと予想しつつ、将来像を尋ねてみた。「もつというんな業務を経験して、何でも出来る職員になりたいです。」その答えは予想外だった。「広くいろんなことを経験して、業務を理解していれば、どこに行っても役立ちますし、自分の不安も少ないと思うので。」中田の向上心はまだまだ続く。いろんな業務を経験するとき、最初は誰しも分からないことが多く四苦八苦するだろう。そんな時に心がけていることがあると言



水資源機構の予算は国からの交付金※1・補助金※2と利水者の皆さまからの負担金などで構成されている。翌年度の建設事業や管理業務に必要な額を取りまとめ、関係省庁に對して概算要求を行う。概算要求時は、関係省庁に要求内容についての説明を行う必要がある。その際には遵守しなければならない多くの関係法令を知っておく必要がある。「関係法令については、知っている当然」として話が進められたり、その法令を絡めた質問を受けたり…。最初は話についていけないこともありましたが。最初は話についていくために、関係省庁への説明をスムーズに進めるためには、分からないことを事前に調べておくなどの準備が欠かせないという。

さらに、業務の効率を上げるための工夫も欠かさない。「自分が作成する資料データにコメント機能などを使って、元となる数字の出典などのメモを残すようにしています。同様の資料を次回作成する時に、この数字は何を参考にしたんだっけ？」と何度も調べる時間って無駄じゃないですか。それと、自分の後任には予算課業務の未経験者が来ることを想定

